

放射線に関する Q & A

放射線は目に見えません。しかし正しく認識し、対処することで過剰な心配や、無用な被ばくを避けることができます。放射能対策室では定期的に、この Q & A を連載していきます。

監修＝相馬市健康対策
専門部会委員、東京大
学医科学研究所
坪倉正治
作成＝放射能対策室



Q ガラスバッジによる測定は何を見ているのでしょうか？

A ガラスバッジによる測定は、数か月間にわたって着用してもらうことで、日常生活中に受ける外部被ばく線量を計る検査です。市では平成 23 年度から毎年、乳幼児から中学生までの子どもと妊婦を対象に 3 か月間の測定を実施してきました。今年も 9 月から測定を行っています。

平成 23 年度から 25 年度の測定結果を比べると、市が設定した年間の追加被ばく線量の目標値（1.6mSv）を超える方は、平成 23 年度は 81 人、平成 24 年度には 16 人でしたが、平成 25 年度は 0 人でした。多くの方で年々値は低くなってきています。また、平成 25 年度には、国が長期目標としている追加被ばく線量 1mSv を下回っている方がほとんど（平成 25 年度に検査を受けた方の 99.7%）でした。

平成 23 年度から毎年行っている市内の空間線量の計測（500m メッシュ調査の結果：広報そうま平成 26 年 7 月 1 日号、市ホームページに掲載）でも、年を追うごとに市内の空間線量が下がってきていることが示されています。既にほとんどの地域で外部被ばくは十分低くなってきておりますが、更に下げたいと考える場合、日常生活を長く過ごす場所の線

量を下げることが効果的です。

市では、10 月から上記の対象者以外の希望者に対し、個人積算線量計での外部被ばく測定を行うことといたしました。測定方法は、上記のガラスバッジと比べ着用期間は短く、2 週間着用して日常生活を過ごしてもらい、その間の 1 時間毎の被ばく線量の測定を細かく行うことができるものです。測定期間中の行動を記録すれば、日常生活の中で空間線量の高い場所を把握することもできます。また、市内の各世帯に測定の案内と同意書を送付することとしておりますので、内容を確認いただき、申込みいただきますようお願いいたします。

●メッシュ調査結果 （平成 23 年度・平成 26 年度）

地表面：土

地区	平均線量（ μ Sv/h）	
	23 年度調査	26 年度調査
中村	0.55	0.20
東部	0.42	0.15
大野	0.48	0.18
飯豊	0.39	0.14
八幡	0.72	0.26
山上	1.03	0.33
日立木	0.55	0.21
磯部	0.38	0.15
玉野	1.88	0.69
平均	0.75	0.26

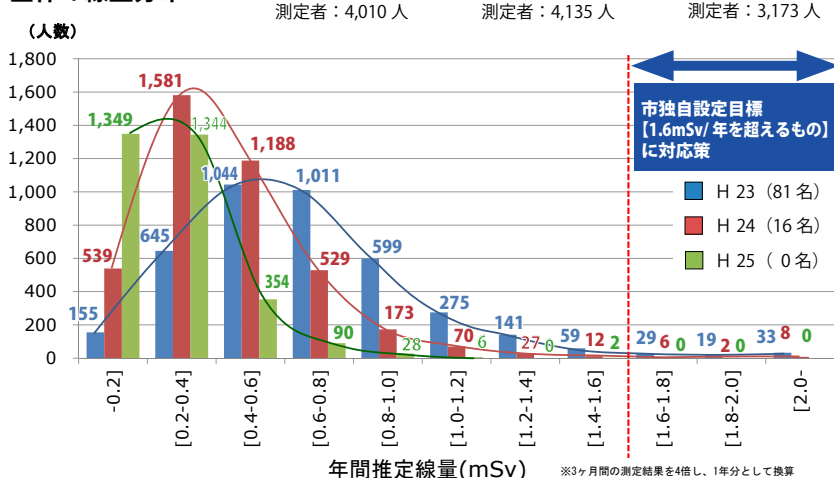
地表面：舗装

地区	平均線量（ μ Sv/h）	
	23 年度調査	26 年度調査
中村	0.41	0.13
東部	0.30	0.11
大野	0.38	0.12
飯豊	0.34	0.11
八幡	0.57	0.16
山上	0.74	0.20
日立木	0.46	0.16
磯部	0.28	0.11
玉野	1.70	0.46
平均	0.60	0.17



個人線量積算計

全体の線量分布



※ 1.6mSv/年を超えた方、再測定で数値が下がらなかった方には、個別説明会などを開催。日常生活で注意すべき点などを説明し、再度検査を行いました。

出典および参考資料：相馬市ホームページ

●問い合わせ先 放射能対策室 ☎ 37-2270

① 広報そうま H26. 10. 1